

担当教員 日高真吾				
開始時期 前期	開講期間 半期	科目番号 20DCSf02	授業形態 講義・実習・ 演習	単位 2
キーワード 文化資源・災害・文化財		対象学年 1,2,3 学年	聴講・参加資格 専攻	
科目名称：日本語 文化資源研究特論				
科目名称：英語 Proseminar (Cultural Resources Studies)				
科目の概要：日本語 大規模災害時における文化資源の保全活動—被災文化財の視点から—				
科目の概要：英語 Conservation Activities of Cultural Resources in Large-scale Disasters: From the Viewpoint of Cultural Properties				
科目の目的： 災害という危機的な観点から、文化資源を取り巻く環境ないしは状況について把握するとともに、それらを効果的に保存、活用する方法論を考察することで、論理的な思考と実践研究の視点を身につけることを目的とする。				
学習成果・習得する技能や知識： 文化にまつわる有形、無形の文化資源について知り、研究の方法論を身に着けることを目的とする。				
成績評価方法・基準： 授業への参加貢献度および9月提出期限のレポートによる評価				
授業内容： これまでの災害でどのような被災文化財の救援活動が展開されたのかについて、以下の事項について着目し、3つの視点に基づいた講義を通して理解を深める。次に実習として被災した文化財の対応事例の調査を学生自らがおこなう。次に演習として学生の調査報告をもとに、被災文化財の救援活動の在り方について議論する。なお、授業日程は、教員および受講者において日程を調査しながら下記の要領で実施する。 講義内容 1. 日本における被災文化財のレスキュー事業の歴史 3時間 (2コマ) 2. 被災文化財のレスキューの内容について (救出・一時保管・応急処置) 3時間 (2コマ) 3. 被災文化財の活用事例についてについて 3時間 (2コマ) 実習 被災文化財の対応事例にかかる調査 30時間 (20コマ分) 演習 調査報告に基づく議論時間 6時間 (4コマ分)				
日程： 木曜 10:30 から 12:00 13:30 から 15:00				

<p>実施場所：          国立民族学博物館第3演習室もしくは第4演習室（変更の可能性あり。その場合は逐次、受講生に連絡）</p>
<p>使用言語：          日本語</p>
<p>準備学習：          ・指定した文献『記憶をつなぐー津波災害と文化遺産』、『災害と文化財ーある文化財科学者の視点から』を事前に読んでおくこと。          ・実習にともなう調査について指定された日にレポートを作成すること</p>
<p>関連科目・履修条件：          本科目と同時に「文化資源研究」を受講することが望ましい</p>
<p>教科書・必読書：          必読書について、日高真吾編『記憶をつなぐー津波災害と文化遺産』千里文化財団 2012年、日高真吾「災害と文化財ーある文化財科学者の視点から」2015年千里文化財団          また、授業では資料を配布する</p>
<p>備考：日本語          地域文化学・比較文化学の2専攻の学生のみ申請可</p>